

自然環境活用部会の取組

第6回越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

第6回自然環境活用部会 開催概要

自然環境活用部会の目的

指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

第6回自然環境活用部会

日時：令和7年5月26日（月）13：00～15：00

会場：北陸地方整備局

- 議事 (1) 第5回自然環境活用部会 および第5回協議会の報告
(2) 行動計画策定に向けた検討
(3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクトについて
(4) イベントへの出展について(報告)
(5) その他

主なご意見等

【行動計画策定に向けた検討】

- えちごエコネットのパネル類を佐潟や福島潟など地域の関連施設で展示し、関連施設との繋がりをつくっていただければ良いのではないかと考える。
- えちごエコネットのブランディングを進め、えちごエコネットに対する県民の理解を深めていただければと考える。
- えちごエコネットは、しっかりしたプラットフォームは構築されているものの、アウトプットが一般の方まで伝わっていないと感じている。露出できるような機会や収益につながるような事業を模索できればいい。
- 環境学習は義務教育課程で実施されるが、年齢が上がるにつれて関心が薄れがちである。大人の遠足など、学習というハードルを下げたプログラムを、環境学習の対象として空いている世代に向けて展開できるとよい。

【福島潟エリアにおけるモデルプロジェクトについて】

- 瓢湖のウェブサイトの内容を、より求められている情報にアップデートしていただくとよい。
- 福島潟で力を入れている潟食、潟舟、レンジャーガイドの取組について、広報への協力をお願いしたい。
- 地元の漁師が潟来亭におられて、囲炉裏端で交流できるのは旅行者にとって嬉しい体験になっているのではないかと考える。ただ、属人的な部分があるため、その交流が常にパッケージ化できるかという課題がある。
- 協議会で潟のストーリーを作り、潟の成り立ちや利点、活用方法などを伝えることができれば、今後のツアーや自然学習にも利用できるのではないかと考える。北区郷土博物館との連携も考えられる。
- 自転車は海外からの旅行者を迎えるのに重要なツールになっていると考える。福島潟で自転車を活用したツアーを検討してはどうか。

【イベントへの出展について】

- 新潟県内の住民、特に新潟市民の中に佐潟や福島潟、瓢湖へ訪れたことのない人も多いため、新潟市のイベントに出展しPR活動を行うことは重要であり、継続的に行った方がいい。
- 指標種の選挙風ポスターは、興味関心のない人の目も引く良いアイデアだと思う。



福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト 取組概要

福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト

えちごエコネットの指標種であるガン類・ハクチョウ類が数多く見られ、かつ様々な主体による活動基盤が充実している福島潟周辺において、生態系ネットワークの視点を取り入れた取組をモデル的に実践するもの。えちごエコネット形成に向けた具体的な取組イメージの共有を図り、他地域での効果的な展開の実現を目指している。

■ 広報

<えちごエコネットWEBサイトへのアクセスを誘導するQRコードの活用>

福島潟や瓢湖を訪れる人に魅力を伝える手段として、えちごエコネットウェブサイト内の福島潟、瓢湖の見どころマップに誘導するQRコードを来訪者の目に留まる箇所に提示した。

提示箇所		QRコードリンク先
福島潟	自然学習園内の標柱	福島潟エリア見どころ・おすすめページ
瓢湖	周辺看板、観察舎内	瓢湖エリア見どころ・おすすめページ



<イベントの企画・開催>

ビュー福島潟主催の「みずとつちの芸術祭—福島潟—2025・冬」と連携し、関連イベントとして「潟に出て、潟を知ろう」を企画し、当日運営を行った(2025年3月)。

福島潟を散策しながら参加者が撮影した写真を、エコネットの視点から解説する企画。



福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト 取組概要

■ 観光資源の検討

観光資源の1つとして「潟の食材」の活用を始めている。

<潟料理の提供>

「割烹料亭・松潟屋(新潟市北区)」では、潟来亭で、外国人観光客(ロシア、キルギス、リトアニアなど)へ潟料理の提供を行っている。



出典:佐藤忠明氏 Face Book
(<https://www.facebook.com/share/1KvXs9L7Ph/>)

献立の例

・ナマズフライ ・雷魚の塩焼き ・川がに ・オニバスの実白和え

<商品開発>

潟の恵みのひとつである「ヒシ」の実を使った商品開発に向け、「C's kitchen(新潟市東区)」に試作を依頼し、検討を行っている。



左)ヒシの実
パウンドケーキ
右)ヒシの実パイ

写真提供: C's kitchen

■ 環境学習

学校外での自然環境学習の推進の取組として、イベント主催者と連携し、福島潟の自然やえちごエコネットの取組等を伝えるアクティビティを提案、実施した。

<福島潟たいけん合宿>

福島潟にある宿泊施設「菱風荘」が毎年開催している「福島潟 夏のたいけん合宿」で、「えちごエコネット自然学習」をプログラムに追加し、子ども達に福島潟の自然やえちごエコネットの取組についてレクチャーを行った(2024年7月)。

2025年度も引続き連携の予定。



<潟の学校>

志民委員会* 潟部会主催の親子向けイベント「潟の学校」では、プログラム内容について提案を行った他、当日は参加者を対象にえちごエコネットの取組を紹介した(2025年6月)。

*:豊かに発展した未来の新潟市を思い描き、魅力ある新潟市を造り出そうとする志を持った団体



えちごエコネット広報活動（イベントへの出展）

イベント名	開催日	開催場所	イベントの趣旨・概要
第7回にいがたオーガニックフェスタ ＜阿賀野会場＞	2024年10月6日(日)	道の駅あがの	「来て、見て、食べて。オーガニック食材に触れる一日」 有機農業に取り組むつくる人、つかう人、たべる人の出会いと学び合い、交流と関係づくりの場を提供し、多様な生物と共生しうる農業の実践を通じて、若い人たちにも共感を広げ、持続可能で元気な地域社会づくりへのきっかけをつくることを主な目的としたイベント
にいがた環境フェスティバル2024	2024年11月17日(日)	JR新潟駅 ガタリウム&南口中央広場	新潟県の豊かな自然環境の発信と、地球温暖化対策・資源循環型社会の構築・生物多様性の保全などの環境の課題についての普及啓発を行い、ライフスタイルや事業活動を環境に配慮したものに变化させ、脱炭素社会の実現や持続可能な社会の構築へ繋げることを目的としたイベント



出展内容(2イベント共通)

- * 指標種人気投票
 - ・指標種であるオオヒシクイ、コハクチョウ、トキの選挙風ポスターを掲示し、人気投票を実施
 - ・投票した指標種のカードをプレゼント
- * 潟の恵「ヒシの実・ハスの実」試食
 - ・塩ゆでしたヒシの実とハスの実を来場者に提供



にいがたオーガニックフェスタ



<指標種カード>



にいがた環境フェスティバル